

2024年4月25日

各 位

会社名 クオリップス株式会社
代表者名 代表取締役社長 草薙 尊之
(コード：4894、東証グロース市場)

次世代モダリティ開発を促進する細胞大量製造システムに係る共同開発開始のお知らせ
(NakanoshimaQrossを拠点とした細胞大量製造バリューチェーン開発コンソーシアムの発足について)

クオリップス株式会社（以下、「当社」）は、この度、細胞を用いた次世代モダリティの開発を促進する細胞大量製造システムを開発するための開発共同体（以下、「コンソーシアム」）を形成し、その研究開発事業の活動を中之島未来医療国際拠点（NakanoshimaQross）にて正式に開始いたします。同コンソーシアムでは細胞大量培養システムに係る技術、ノウハウ、知見を呼び込み、そのバリューチェーン構築を促進するオープンイノベーションを強力に推進します。

コンソーシアム形成の背景は、ヒトや動物の細胞を用いた技術は、再生医療等製品や医薬品だけでなく、培養上清を用いた新しい治療技術の開発や培養食肉の開発など、多方面かつグローバルに進展し始めており、これら全てに共通することは大量に細胞を生産する必要があること、さらに大量製造は多岐かつ複雑な工程で構成されることから、製造装置及びシステム、そこで利用されるデバイス、原材料等のアプリケーションの開発において、様々な企業が持つ技術や知見を結集する必要があるからです。こうした技術を確立することにより、様々なバイオベンチャーに対しても、協力体制を構築することが可能になります。

また、当社は、iPS細胞由来心筋細胞シートの実用化に向けた開発を進めておりますが、今後の事業計画において、米国進出のみならずグローバルマーケットにおける事業展開を見据えた場合、更なる製造能力拡大が必要とされること、また、子会社のクオリップスヘルスケアサイエンスが手掛ける培養上清液事業の拡大等も展開していく上で生産・製造技術の高度化が要求されることから、本コンソーシアムの設置に到りました。

当社は、iPS細胞由来再生医療等製品の製造及び品質管理技術、並びに大量製造を実現する独自の細胞

培養加工施設的设计技術をもって本コンソーシアムに参加し、参画する各企業と共同で、細胞の大量製造を構成する「培養～回収～充填・分注～凍結～保存」の各工程を統合したプラットフォームシステムと、本システムで利用されるアプリケーションの開発を、世界に先駆けて行います。

本コンソーシアムは、開発拠点を今夏に稼働予定の中之島未来医療推進拠点（Nakanoshima Qross）に置き、かねてより各社と進めてきた要素技術の開発に基づき、パイロットスケールで製作するプラットフォームシステムを、本拠点に導入する予定です。さらに本コンソーシアムでは、アプリケーション開発を推進し、継続的かつ持続的な開発を進めると同時に、当社が計画する細胞培養加工施設への導入を行い、商用レベルでの実証を行うことも計画しています。

本コンソーシアムにおける活動の成果は、当社事業への導入はもとより、各社と協力して作り上げたパッケージシステムとして、国内外で活用していきます。加えて、各社の独自事業での利用を促進するオープンイノベーション拠点として本コンソーシアムを位置づけ、今後も特定企業による独占的な開発や、原則的に当社が成果を独占しないことを方針として、今後も様々な技術ノウハウを有する各社との開発を促進して参ります。

【コンソーシアムの概要】

名 称	: 細胞大量製造バリューチェーン開発コンソーシアム（仮称）
発 足 日	: 2024年5月21日（予定）
参画表明企業	: 四国計測工業株式会社（自動大量接着細胞培養装置他） : 佐竹マルチミクス株式会社（自動大量浮遊細胞培養装置他） : 株式会社ニチヨー（自動大量細胞充填・分注装置他） : フクシマガリレイ株式会社（自動大量凍結装置他） : 横河電機株式会社（MES・LIMS統合システム他） ※順不同（2024年4月現在）

コンソーシアムの目指す姿

継続的な循環開発により大量製造技術の世界をリードする



(本件に関するお問い合わせ先)
クオリプス株式会社 経営企画部
cuo_ir@cuorips.co.jp